愛知・山中遺跡

1 所在地　愛知県一宮市萩原町富田方字山中

2 調査期間　一九八一年（昭56）二月～四月

3 発掘機関　一宮市教育委員会

4 調査担当者　岩野見司

5 遺跡の種類　集落跡

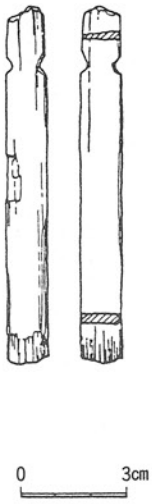
6 遺跡の年代　鎌倉時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

山中遺跡は弥生時代後期の「山中式」土器出土遺跡として著名である。発掘は県立尾張病院の埋管工事にともなう事前調査であり、埋管に必要な幅二m、長さ二六mの範囲であった。直径二・四mの円形の掘形をもつ井戸は、一段の木枠と曲物二段が残存し、砂に埋もれた底から箸・山茶椀・小皿とともに木簡（材質は竹）が出土した。それらは一四世紀代に比定されよう。

（名古屋北部）

8 木簡の釈文・内容



(101)×12×2　039

(1)　「〈□」

僅かに墨書の痕跡がみられる。付札か。

9 関係文献

一宮市教育委員会『尾張病院山中遺跡発掘調査報告』（一宮市文化財調査報告8　一九八二年）

（岩野見司）